

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

競技は2019年日本陸上競技連盟競技則と本大会申し合わせ事項によって行う。

2. 競技場（スタンド等）への入場について

- (1) 開門時の入場は正面メインスタンド入口とする。
- (2) トラック内への出入りは、北西ゲートと南西ゲートを使用すること。
- (3) 更衣室への出入りは、スタンド下北入口を使用すること。

3. 練習について

(1) 競技開始前の競技場での練習

5月25日（土）開門～8：30 26日（日）・27日（月）開門～9：00

・ジョグはレーン外 ・1、2レーンは長距離ペース走用

【1日目】

[ホームストレート]

3～5レーン=直線からのスプリント練習 6～7レーン=100mH 8～9レーン=110mH

[バックストレート]

3～7レーン=リレー練習 8～9レーン=直線からのスプリント練習

【2日目】

[ホームストレート]

3～7レーン=直線からのスプリント練習 8レーン=100mH 9レーン=110mH

[バックストレート]

3～4レーン=リレー練習 5～6レーン=女400mH 7～8レーン=男400mH

9レーン=直線からのスプリント練習

【3日目】

[ホームストレート] [バックストレート]

3～6レーン=コーナーからのスプリント練習

7～9レーン=直線からのスプリント練習

**※リレーバトン練習は1→2走と3→4走は第2コーナー、2→3走は第3コーナーで行う
各校で使用したリレーのマーク（テープ）等は必ず取り除くこと。**

(2) 上記時刻以降の練習はバックスタンド後方の練習走路を使用すること。

走る方向は北から南の一方通行。逆走は禁止。個人のハードル等を持ち込まないこと。

また、ゴムチューブ等を使ったスピード練習は禁止する。

(3) 競技場および公園内はメディシンボールなど、物を投げる練習は禁止。

(4) 周回道路を含む公園内では、ダッシュなどスピードを出しての練習は危険を伴うため禁止。

(5) 招集後の練習は、審判員の指示に従うこと。

(6) 走高跳、走幅跳、三段跳については準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。

4. 招集について

(1) 招集場所は、室内練習場南側に設ける。招集場所への携帯電話・スマートフォン・タブレット等の通信機器の持ち込みは禁止する。

(2) 招集時間（競技開始時刻前の下記時刻で行う。）

	トラック	跳 躍	投 て き	棒 高 跳
開始時刻	30分前	50分前	60分前	90分前
完了時刻	20分前	40分前	50分前	80分前

- (3) 競技者は招集開始時刻には招集所内に待機し、競技者係にて点呼を受け、ナンバーカード・腰ナンバーカードとスパイクピンの確認を受けること。
- (4) 点呼の代理は認めない。招集完了時刻に遅れた競技者は出場する意思がないものとみなし処理する。ただし、多種目を同時刻に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集完了時刻までに本人が招集所にある多種目同時出場届に必要な事項を記入し、競技者係に提出すること。その場合に限り代理人の点呼を認める。
- (5) リレー競技について
 - ① オーダー用紙を、各ラウンド(予選・準決勝・決勝)の1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。オーダー用紙は、プログラム巻末に添付のものを使用すること。
 - ② オーダーメンバー全員が招集開始時刻には招集所内に待機し、点呼を受けること。他種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合は代理でも可とする。
- (6) 腰ナンバーカードを競技者係から受けとり、パンツの右側やや後方につけること。ゴール後必ず返却すること。
- (7) 4×400mRの第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側の腰に腰ナンバーカードをつけること。
- (8) 男子5000m、5000mWと女子3000m、5000mWは別ナンバーカードを使用する。
- (9) 招集所からスタートライン・跳躍場・投てき場へ行く場合、競技者係の指示に従うこと。
- (10) 止むなく欠場する場合は、招集開始時刻までに競技者係に、欠場届を必ず提出すること。用紙はプログラム添付のものを使用すること。
- (11) 混成競技について
混成競技者は、第1日目・第2日目の最初の種目については招集所にて点呼を受け、2種目目からは、混成競技係の指示時刻に現地にて点呼を受けること。
混成競技控え室は室内練習場北側に設ける。

5. 番組編成及び競技の抽選について

- (1) トラック競技のレーンおよびフィールド競技の試技順は、プログラム記載通りとする。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝ならびに跳躍競技の決勝については、規則に則り組合せ、レーン順・試技順を決定し、その結果を正面玄関外の記録掲示板に発表する。
- (3) トラック競技において、次のラウンドへの進出者を決める時、その最下位で同タイムが出た場合、写真を拡大し0.001秒の実時間を考慮して決定する。それでも判定できない時は、レーンに余裕があれば全員を次ラウンドへ進出させるが、レーンに余裕がない場合には、抽選を行い次ラウンド進出者を決定する。

6. 競技について

- (1) 当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
- (2) 短距離競走の場合は、フィニッシュラインを過ぎてもレーンに沿って走ること。
- (3) ナンバーカードは胸と背にはっきり見えるようにつけること。跳躍競技の競技者は背または胸につけるだけでもよい。
- (4) スパイクのピンは11本以内とし、9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。
- (5) 5000m・3000m・20名を超える競歩種目のスタートはグループスタートとする。
- (6) 競歩種目ではラスト1周で男子5000mWは28分、女子5000mWは33分を超える選手は競歩主任が競技を打ち切る。
- (7) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※ 4人以上または各競技者の最初の競技

※※ 走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2人～3人	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※※	2分	3分	2分

※ 4人以上または各競技者の最初の競技

※※ 残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用。

(8) 跳躍競技の予選通過記録は次の通りとする。

種目	走高跳	走幅跳	三段跳
男子	1m89	6m80	13m80
女子	1m55	5m25	

※三段跳の踏切板の砂場からの距離

- ・男子三段跳・・・12m
- ・女子三段跳・・・10m

<バーの上げ方>

男子走高跳	予選	1m78・86(練) 81 86 89
	決勝	1m83(練) 86 89 92 以後3cmずつ上げる
女子走高跳	予選	1m44・52(練) 49 52 55
	決勝	1m49(練) 52 55 58 以後3cmずつ上げる
男子棒高跳	決勝	(練習は下記のとおり) 40 60 80 4m00 以後10cmずつ上げる
女子棒高跳	決勝	(練習は下記のとおり) 50 70 90 3m00 以後10cmずつ上げる

決勝で最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による1位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

男子棒高跳練習は3m50、4m00、4m50を設定する。

女子棒高跳練習は2m40、3m00、3m30、3m60を設定する。

(9) 跳躍種目でAピット(トラック側)は1組、Bピット(スタンド側)は2組とする。

(10) 混成競技の走高跳開始の高さは、現地にて決定し、開始の高さの違う2ピットに分けて行う。競技者は第1種目の招集所での点呼の際希望の高さを申請すること。

<バーの上げ方>

男子走高跳	1m75までは5cm 以後3cmずつ上げる
女子走高跳	1m45までは5cm 以降3cmずつ上げる

(11) 混成競技の最終種目ではそれまでの成績順位を表す別ナンバーカードを胸につけて競技を行う。背は競技者の個人のナンバーカードで、腰はレーンナンバーとする。

(12) 投てき種目の計測について

次の種目の記録以下の者は、ベスト記録のみを計測する。

種目	男子	女子
円盤	33m	30m
やり投	47m	30m
ハンマー投	35m	30m

7. 競技用具について

競技用具は、やり及びポール以外は競技場備え付けのものを使用する。やりの検査は、競技開始予定時刻の90分前より70分前まで用器具庫で行う。
混成競技のやりの検査は競技開始時刻の60分前までとする。

8. 抗議について

抗議は総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

9. 表彰について

- (1) 決勝終了後、第6位までの種目表彰を行うので、成績発表後直ちに受賞者席(正面エントランスホール)に集合のこと。他の種目に出場している場合は、必ず代理人が表彰係まで連絡すること。なお、7位・8位にも賞状を渡すので、表彰係まで取りに来ること。
- (2) 総合の部は次のように表彰する。

総合優勝校に賞状及び優勝旗(盾)	2位校から6位校まで賞状
トラック優勝校に賞状及び優勝盾	2位校から6位校まで賞状
フィールド優勝校に賞状及び優勝盾	2位校から6位校まで賞状
- (3) 大阪高体連陸上競技専門部より、男女最優秀競技者に最優秀競技者賞が贈られる。
- (4) 男女総合優勝校の顧問を表彰する。
- (5) 学校対抗得点 1位8点、2位7点・・・8位1点とする。

10. 近畿インターハイについて

- (1) 近畿インターハイへの出場者は各種目6位までに入賞した者とする。ただし男女走高跳・男子棒高跳は6位までに入賞した6名とする。男子5000mW・八種競技、女子5000mW・女子三段跳・女子ハンマー投・七種競技は4位までに入賞した者。ただし、女子棒高跳は4位までに入賞した4名とする。

11. 近畿インターハイ申し込みについて

- (1) 近畿インターハイ出場が決定した選手は、表彰後直ちに正面ロビーの近畿インターハイ受付にて手続きを行うこと。
- (2) リレー種目で近畿インターハイ出場が決定したチーム(学校)は、近畿インターハイ受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込みを行うこと。

12. 式典について

- (1) 返還式は第1日目の8時50分に正面スタンド前で行う。
- (2) 表彰式は第3日目の競技終了後に行う。総合の部該当校の代表者、及び近畿インターハイ出場者は原則参加すること。参加できない場合は近畿受付まで申し出ること。
- (3) 表彰式終了後に近畿大会出場についての連絡行う。

13. 競技場の使用について

- (1) 応援は正面スタンド・バックスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わない。また、正面スタンド中央通路に立っての応援はしないこと。
- (2) テントは、メインスタンド中段通路より下、及びスタンド屋根下・土盛スタンド中断より下およびテント設営禁止区域には設置しないこと。各校部旗・横断幕は、バックスタンド・土盛スタンドを使用すること。
- (3) 更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物等を置いてはならない。
- (4) スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、ゴミ等は分別し配布されたゴミ袋に入れること。(ゴミ集積場所は当日連絡)また、競技場内に飲料水のボトル等を放置しない。
- (5) 競技者は決められた通路から入退場すること。
- (6) 記録は、正面玄関外の記録掲示板に掲示する。

- (7) 通行禁止、使用禁止等の指示については厳守すること。
- (8) トラック・フィールド以外でのスパイクの着用は禁止。

14. その他

- (1) 競技中に起こった怪我については、本部の医務室で応急処置のみ行う。
- (2) 集団での声援（応援）及び不正な助言行動は自粛すること。
- (3) **競技エリア内に携帯電話・スマートフォン・タブレット等の通信機器の持ち込みは禁止する。**
- (4) プログラム記載の個人情報（氏名、学校名など）および大会結果は、新聞及び大阪陸上競技協会ホームページ（高体連陸上競技専門部）に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。
- (5) 外国人留学生選手が大会記録を更新した場合の取り扱いは大会記録（国際）として認定する。

周 知 板

第 72 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会について

期 日 6月13日（木）～16日（日）

場 所 ヤンマースタジアム長居およびヤンマーフィールド長居

総 監 督 船 津 哲 史（ 大 塚 ）

5月27日（月）大阪インターハイ終了後、グラウンド内にて監督より諸注意を行う。